



なかよし苗代っ子

令和6年 1月号

苗代小学校校長 広見 理恵

TEL 0761-22-1041

FAX 0761-22-1059

e-mail:nosiro-e@kec.hakusan.ed.jp



NOSHI

人の「節」とは ～ 竹の節・人の節 ～



あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

この冬休み、保護者の皆様・子どもたちはどのように過ごされたでしょうか。

三学期の始業式では、「竹の節」の話をしました。竹はあんなに細いのに大雪や風に耐えられるのはなぜか。それは「節」があるから。「節」があるからこそ、強風や大雪でも竹は折れない。

そして人にも節があると伝えました。人間にとっての節は2つあり、①「節目」と ②「うまくいかないとき」。一つ目の「節目」では、人は自分をふり返ったり、決断したり、未来に目標を持つ。そのことで人は大事なものを確認したり、新たな自分になろうとしたりする。そのための「節目」

そして二つ目の「節」は「うまくいかないとき」。うまくいかないときに、逃げずに、やるべきことをやりぬく姿勢こそ、「人としての節」ができるチャンスであり、その経験が人としての強さ、たくましさ、しなやかさにつながる・・・という話をしました。

今を生きる子どもたちには、ぜひうまくいった経験ばかりでなく、上手くいかない時にこそ、人としての節・心の節ができる時期ととらえ、前向きに乗り越えてほしいと思っています。

この一年は、これから生きる子どもたちにとってどんな「節」になるのでしょうか。あの経験があったから強くなれた、あの経験があったからつながりの大切さを知れた・・・子どもたちが自らの経験を自分の人生にどう生かしていくか、保護者の皆様とその成長を見守りたいと思っています。

新しい年です。本年もどうぞ、苗代小に更なるご支援をお願いいたします。

「学校に行きたいです」



1月1日の16時12分に起きた能登半島地震により、苗代小学校も避難所となり、苗代の子もたちも保護者の皆様も様々な形で被害にあったことと思います。今も大変な思いをされている方々もたくさんいらっしゃる中、小松市では1月9日に全小中学校が再開しました。始業式に集まった全校児童一人ひとりの顔を見、これまで感じたことのない思いで胸がいっぱいになりました。

地震発生の数日後、テレビで能登の小学生がインタビューを受けている場面を見ました。「今、何がしたいですか」との問いに、食べ物すらまだ十分でない中で、その子が言った言葉「早く学校に行きたいです」に衝撃を受けました。お腹いっぱい食べることでなく、ゲームなどの遊びをしたいということでもなく、「早く学校に行きたい」。子どもたちにとって、学校とは傷ついた心を癒す場所でもあるのだと、こんな大変な状況の中で行きたい場所なのだ、その子の言葉に教えられました。

毎日学校に来て、友達や先生と会って、授業を受けたり、他愛もないおしゃべりをしたりする毎日が、子どもたちにとってどれほど貴重で大切なことか。心は見えないからこそ、今後も子供たちの心を、全職員で目を凝らして見取っていきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様のご協力をお願い致します。

字は心を表す ~書き初め~



1月9日の始業式後、書き初めを行いました。どの子も真剣に字と向き合っていました。字は性格や心を表すものだと思います。元気な字、のびのびとした字、きちんとした字、勢いのある字、集中している字・・・字から見える一人一人の良さを伸ばしていきたいと思っています。



1月9日の始業式の朝には、どのクラスにも担任の先生からの温かなメッセージが書き綴られていました。冬休み、不安な思いをした子もいるでしょう。そうした子どもたちが、少しでも明るい思いで3学期をスタートできますように・・・と一字一字に思いを込めて。3学期のスタートです。

黒板に思いを込めて ~始業式~

